

◆高山れおな選

七夕や星が二人に下りてくる

(さいたま市) 関 とし子

人の国の消滅を待つ蟻の国

(大津市) 星野 暁

夕焼けを見て決めた今日ナポリタン

(東京都新宿区) 岩本 朗

エンジンもハンドルもなく紙魚は行く

(富士市) 村松 敦視

会わなくていい会わなくて遠花火

(瑞浪市) 中神 英子

捻挫部に毛筆で塗る焼酒

(鎌倉市) 黒岩 伸幸

怪人は夜行性らし乱歩の忌

(葛城市) 山本 啓

たのまれて角振町で団扇買ふ

(奈良市) 和田 康

沙羅の花旧姓で呼ぶ喫茶店

(神戸市) 山本 美鈴

角持でど非戦の歩みかたつむり

(大和市) 岩下 正文

【評】関さん。七夕伝説を背景にした美しい句。星野さん。日本の人口は2100年に半減、2200年には1000万を切るとも。蟻の国、鹿の国、熊の国……。岩本さん。そういう日もあるでしょう。十席。標語俳句だが、そういうものとして佳い出来。

◆小林貴子選

正直そうにみえる目高を飼いにけり

(浜松市) 川口八重子

老後てふアディショナルタイム明易し

(川越市) 矢部 薫

雨蛙けふは一茶の誕生日

(玉野市) 北村 和枝

胸元におみくじ置す浴衣かな

(横浜市) 猪狩 鳳保

その声で愛を語るか牛蛙

(大分市) 小出 厚子

四年過ぐ未だくちなはの毒消えず

(さいたま市) 関根 道豊

サーファーに乗られまいとて波寄する

(神奈川県湯河原町) 中西 恵子

たなはたや天測士とふ職ありき

(横浜市) 白川 修

一筋の祈りへ誘う庭の薔薇

(伊那市) 北原喜美恵

姑が躑躅を見下して去りぬ

(熊本市) 夏風かをる

【評】一句目、目高にそんな顔つきの違いや性格の違いがあるとは驚き。二句目は試合の追加時間を観て、ふと人生を思う。三句目、忌日ならぬ誕生日を知っているとは俳人の鑑。ちなみに六月十五日。四句目、恋愛運が良かったので大切に。